

日赤病院間における整形外科人事交流の今までとこれから

名古屋第二赤十字病院

鶴飼 淳一、佐藤 公治、安藤 智洋、

【目的】赤十字病院は地域の中核病院としての役割を担うために全国に多数存在している。今まで日赤病院整形外科では病院間にて診療に関わる技術だけでなく、下級医・コメディカルへの教育体制、リスクマネジメント管理など様々な事を学んだり共有したりすることにより、人事交流参加者のステップアップのみならず、参加者在籍施設の更なる発展につながると考えられて日赤病院間の整形外科人事交流が施行されてきた。しかし、人事交流が施行できた病院は限られており、今回は今までの人事交流を振り返りながら現時点での問題点を考え、そしてこれからの人事交流の在り方について検討し報告する。

【方法】全国赤十字病院の整形外科部長宛てに当院で作成したアンケートを電子メールにて送付し、回答に御協力頂いた内容を集計、分析しながら考察を行った。

【結果】今回、アンケート回答に御協力頂いた病院は39であり、そのうち10病院間で人事交流が行われていた。その満足度は交流参加者、派遣元部長ともに非常に高く、これまでの人事交流が非常に有益であったと考えられた。また、これから人事交流に参加したいという回答も多くあり、人事交流への関心・注目度も高いと思われた。しかし、人事交流への参加がこれまでになかった病院の理由として一番多かった回答は“人員上の問題”であり、これ以外にも今後解消すべき問題が山積しているとわかった。

【まとめ】今回のアンケート回答の結果を踏まえて、今後は有益であると思われる日赤病院間の整形外科人事交流を継続していくために、様々な制度作成が不可欠であるということを再認識した。

骨折手術における質指標作成の試み

武蔵野赤十字病院

小久保吉恭、山崎 隆志、原 慶宏、浅井 秀明

【はじめに】質指標 (Quality Indicator、以下QI) は医療施設が提供する医療の質を示す定量的な指標である。当科ではQIを算出し経年的に比較することは、自施設の現状を把握することになり医療の質の向上につながると考えている。本研究の目的は骨折手術のQIを作成しその効果について考察することである。

【対象と方法】2011年から2016年に施行した整形外科骨折手術2284例中、31日以内に複数回手術した症例を後ろ向きに調査した。再手術を要した原因をA:二次的な手術(開放骨折など最初から予定された手術)、B:感染性疾患の再手術、C:他部位の手術、D:再縫合(創離開、表層感染含む)、E:手術部位感染、F:内固定具の位置不良・再骨折に分類し、D,E,Fを予定外の再手術と定義し骨折手術のQIに設定した。

【結果】骨折手術における予定外手術発生数は2011年では276例中6例(2.2%)、2012年では320例中5例(1.6%)、2013年では306例中6例(2.0%)、2014年では421例中9例(2.1%)、2015年では421例中6例(1.4%)、2016では年540例中10例(1.9%)であった。再縫合、深部感染は2015年、2016年では発生しなかったが、内固定具の不具合は2016年では10例(1.9%)で例年より発生数が多かった。

【考察】当院では事故防止活動の一環として1996年以降インシデントレポート(IR)を採用している。IRの提出基準は明確に規定されてはいるが、インシデント全例が報告されているかは不明である。一方、31日以内の複数回手術例は医事課職員により全例抽出可能である。さらに当科医師が診療録を調査することで現状を分析することが可能である。事象の発生率をQIにより客観的に表示できれば対策立案後の効果判定も可能である。今回の調査では術後感染防止活動に関しては効果があったと考えられた。内固定具不具合の原因と対策については現在個別に検討中である。